

# 公衆浴場背景画保存会 趣意書

1993年4月12日

2016年4月1日改正

事務局 〒207-0021 東大和市立野3-1293-10-1-322  
電・042(563)1543 Fax 042(565)9137

代表 小野 敏子

委員 東大和 ・松本建二 ・井上ふさ子 ・伊藤孝二 ・松永 猛  
東村山 ・櫻井 力  
埼玉 ・佐怒賀日出子 ・酒見一義 ・松原哲生  
千葉 ・小野直樹  
神奈川 ・河井英子  
静岡 ・八木橋 彩

お風呂は、私たちの生活に切っても切り離せない関係にあります。

その中で公衆浴場（銭湯）については、特殊な位置付けを与えることができます。すなわち約450年の歴史を持つ銭湯は、時には社交場、ある時には情報交換の場でもありました。これらは、他の諸外国では見られない現象です。

日本が経済大国と言われ、世界の中の日本と言われるまでになったこと、また、日本独特の文化というものに思いを馳せますと、ともすると銭湯こそがこれらを生み出す原動力になったのではないかとさえ思えてまいります。いずれにしましても、銭湯は庶民の憩いの場であったこと、そして、明日への鋭気を養う場であったことだけは間違いありません。

さて、その銭湯には、様々な形式の外観・内装・設備が備えられています。これらは世相を反映して時代とともに変化してきました。

その中で、私たちが注目しているのは、銭湯の背景画（ペンキ絵）です。浴場背景画は、大正時代に生まれ、昭和時代に発展、その全盛を誇ってきました。また、銭湯といえば、あの浴場背景画を思い浮かべる人が多いかと思えます。しかし、残念なことに、その背景画の描き手がいなくなってしまう現在では、ほとんど見る事が出来なくなりました。まさに庶民の財産とも言うべき背景画がなくなろうとしています。ですから、背景画を保存し得るのは今をおいて外にありません。

そこで、公衆浴場背景画保存会では、この背景画を保存すべく活動を起こしました。幸い、ご高齢ながらご活躍の佐怒賀次男先生に150点前後の当時の作品を依頼。快くお引き受け頂きました。現在は、丸山清人先生と続いております。

今後、幅広く賛助者を募り、活動の輪を広げていきたいと思えます。

ご協力のほどよろしくお願い申し上げます。